

見どころ

★1・3・14 二の堀・三の堀跡
明治に入り堀の多くは埋め立てられましたが、場所によっては小さな流れに変わりつつ、今日でもかつての二の堀、三の堀の様子を偲ぶことができます。

★2 朝日（御金蔵）公園
楽屋曲輪にあった御金蔵を払い下げ、稲荷を勧請した御金蔵稲荷があります（当時の建物は空襲で焼失）。公園の脇を二の堀が走っています。



★4 甲府上水
甲府築城の時浅野長政の命により、飲料に適する水が出なかった甲府の町に、相川や荒川から水を引き入れる甲府上水が敷かれました。水路には石製だけでなく木製のものも使われたので、度々の修理が行われていました。

甲府の金魚
現在金魚で有名な大和郡山市ですが、柳沢氏が甲府を去る時、家臣の横田又兵衛が鑑賞用に持参した事が起源といわれています（諸説あり）。当時の甲府では金魚を珊瑚樹魚といって珍重していて、吉里の重臣である柳沢里恭が描いた金魚の絵も残っているそうです。

★5 清水曲輪跡
北口整備事業に伴う発掘調査で確認された、清水曲輪の石垣が保存展示されています。9メートルの高さがあったと云われ、現在残るのは半分ほどの高さである事が確認されています。

★6 藤村記念館
旧陸沢学校校舎。陸沢村（現在の甲斐市亀沢）から武田神社内に移築されていますが、近年現在地に移されました。国重要文化財。

★7 三念坂改修碑
かつて凸凹した悪路だったこの坂は、有志の寄付により改修されました。「ここで転ぶとよくない事が起こるから念には念を入れて歩きなさい」というのが名前の由来といわれています。

★8 石切場
甲府城の愛宕山石切場。ここで切り出した石は甲府城築城の際、三念坂を通り、藤川を下って城内へ運び込まれ、石垣石材として使われました。県指定史跡

★9 城北新道開鑿碑
中央線開通に伴い停車場が造られた事により、近隣住民の東西の通行が分断されました。そこで城郭を一周するように堀を埋め、石垣を崩して道を開鑿した事を記念して建てられた石碑です。

★10 明治期鉄道高架
中央線敷設当初の煉瓦積みを確認する事ができます。他に、朝日町ガード・横浜通りガード等にも残っています。

★11 徴典館碑
寛政年間(1789-1801)に創られた甲府学問所を、享和三年(1803)に追手門南地（談露館付近）に移築し、徴典館としました。明治になり山梨師範学校と改称して中央公園地に移転、明治15年に徴典館と名を復した事から、この場所に碑が建てられました。

★12 新聞発祥の地碑
山梨最初の新聞『峡中新聞』が発行された書店温古堂のあった場所です。

★13 甲府法人会館
大正十五年(1926)に建造された、県内現存最古のコンクリート製近代ビルです。アールデコ調の装飾や、美しいステンドグラスが見学できます。登録有形文化財。

★15 河岸跡
明治三年(1870)に出された濁川改修の願出により、笠森稲荷付近に繫舟場がおかれ、富士川を上って濁川に入った舟が、この地で荷を下ろす様子は、昭和三年の身延線開通の頃まで見られました。

★16 時の鐘跡
江戸初期、旧横近習町にあった歓喜院に置かれていた時の鐘は、柳沢時代に愛宕の石切場南の地に移されました。明治に入り、鐘の音が空砲に変わって「ドン」と呼ばれ親しまれましたが、近隣に時を告げてきた音も昭和の開戦と相前後してその役目を終えました。

今も通り名に残る旧町名

甲斐の代官所
幕府直轄領時代に国中地方の民政担当として甲府・上飯田・石和の三分(三部)代官が置かれていました。代官所(陣屋)はそれぞれ旧富士川小跡地・旧穴切小門前付近・石和南小学校地に比定されています。他に市川三郷町の市川陣屋、郡内の谷村陣屋、「御三卿」領に伴う田安陣屋(山梨市)、一橋陣屋(韮崎市)、清水陣屋(山梨市)等も置かれていますが、多くが1700年代に取り払われています。

寺社

□1 大泉寺
浅野長政により、慶長の役での戦死者を弔った碑が建てられています。甲府城主柳沢吉保の菩提寺であった永慶寺(現在の護国神社地から大和郡山市に移転)の山門が、総門として移築されています。武田信虎の菩提寺です。

□2 甲斐惣社八幡宮
武田信虎が石和から武田館の西側に移し、府中八幡(現在の古八幡)と呼ばれていましたが、甲府城築城の際に現在地に移されました。名も改められて城の鎮守として篤く庇護されました。府中五社。

□3 妙遠寺
1590年代、加藤清正が朝鮮の役で出兵した際に、持ち帰ったとされる玉すだれがあります。武田陣中守護として祀られた毘沙門天像も安置されています。

□4 八雲神社
甲府城の鬼門よけとなっている神社です。疫病災害除けに御利益があるとされ、人々の信仰を集めていました。もとは祇園寺というお寺でしたが、明治の神仏分離により名前が変わりました。

□5 愛宕神社
武田信玄が、相模国愛宕山から持ち帰った勝軍地蔵を、古城の鬼門鎮守のために古府中に勧請したのが始まりといわれています。後に徳川家康が現在地に移し、さらに甲府城鬼門鎮守の神として再勧請されました。府中五社

□6 成田不動
「おひやくどいし」があり、愛宕山山麓の美しい景観が見られます。

□7 長禅寺
甲府五山の一つであり、武田信玄生母である大井夫人のお墓があります。

□8 庄城稲荷
もとは一条忠頼が館内に守護神として勧請した稲荷社でした。甲府城が築かれた後も稲荷曲輪内に残していましたが、明治維新後に現在地に移されました。今は甲府の街の守り神として大切にされています。

□9 横近習大神宮
武田家の崇敬も篤く、信虎により古府中に勧請されましたが、浅野時代に当地に遷座されました。江戸時代から続く、節分に年男が鬼の面をかぶり、町へくりだす儀式「だいにんさん」は、今でも毎年多くの人々に親しまれています。伊勢神宮外宮の札所となっています。

□10 山八幡
武田家隆盛の頃、竜王町西八幡から八日市場(旧横近習町辺り)に勧請され崇敬を受けていましたが、甲府築城の折、社地から巨石が取れた為、現在地に移された地は石取場となりました。「八宮良純親王御旧跡」を記す石柱や、天明四年記銘の水鉢などがあります。

□14 教安寺
甲府城代平岩親吉が、夭逝した養子の仙千代(徳川家康の八男)の菩提を弔ったお寺です。境内にはお墓が残ります。かつて亀屋座(芝居小屋)があり、五代目市川團十郎が興行を行いました。甲府五ヶ寺。

□15 笠森稲荷
五穀豊穰・商売繁盛を祈った神社です。

□16 車地藏
六地藏を刻んだ石に木の屋根が乗せられた、めずらしい地藏尊です。名前は、船着き場が近く、車が集まった事に由来するといわれ、願い事をして中の地藏が回ったら叶うという伝説があります。

□17 文殊稲荷
文殊(知恵)を司る菩薩を祀っています。

□18 金山神社
鍛冶職人が多く住んだ町の鎮守として祀られています。境内には、昭和の戦火を逃れたコンクリート製の祠が残っています。

□20 山神社
桶職人が多く、扱う木材が取れる山を祀っています。

□21 信立寺
信玄の父、信虎により建てられ、身延山久遠寺の他屋としても機能しました。もとは真立寺といい、穴山小路にありましたが、浅野時代に現在地に移されました。

□22 一貫稲荷
信立寺の鎮守として建てられ、地元の人々の信仰を集めています。

□23 一蓮寺
800年以上の歴史を持ちます。甲府城築城にともない、城下町南端の現在地へ移されました。武田信玄の筆とされる渡唐天神図や柳沢吉保の肖像画が残されています。

□24 穴切神社
城下百石町口の門を当社に因んで穴切御門・坤方の御門と呼ぶなど、甲府勤番からの尊崇を受けていました。重要文化財の本殿と隨身門は桃山時代の建造。境内裏を流れていた甲府上水の名残を今も確認できます。府中五社。

□25 慶長院
山門となっている冠木門は、甲府城内から移築されたものと伝えられています。

□26 清蓮寺
所願成就の神として、神格化された加藤清正(せいしよこさん)が祀られています。自由民権家の小田切謙明や坂本龍馬の許嫁であった千葉佐那子の墓があります。

甲府城下町関連年表	
12世紀後半	一条忠頼、一条小山に居館を置く
正和 元(1312)	一条時信、館地に一蓮寺を開創
天正 10(1582)	武田氏滅亡
13(1585)	.1 家康、一条小山に新城建築を計画
18(1590)	.8 家康、関八州へ移封となり、代わりに秀吉の甥の羽柴秀勝入府。甲斐が豊臣領となる
19(1591)	秀勝が美濃岐阜城へ移封、後に加藤光泰が拝領する
文禄 2(1593)	.11 文禄の役に参加した光泰が釜山で没し(8月)、その後を浅野長政・幸長父子が拝領。甲府城の普請始まる
3(1594)	長政検地「彈正縄」を行う。貫高制から石高制へ
慶長 4(1599)	文禄〜慶長期、甲府城築城・城下町建設に伴い多くの寺社が移転
5(1600)	築城のため一蓮寺を移転
万治 3(1660)	.10 関ヶ原合戦後浅野父子が転封(これまでに甲府城完成)。後に平岩親吉が城代として入国。甲斐が徳川領となる
元禄 2(1689)	.1 九藏火事。これより火消人足制度。各組150人4組600人の人足で火消組編成
16(1703)	甲斐府中の町民14334人になる(江戸時代最盛期)
宝永 元(1704)	.12 大老柳沢吉保、甲斐拝領が決まる
4(1707)	10.4 宝永大地震。49日後富士山噴火。記録上最後の噴火
6(1709)	.5 吉保大老職を退き隠居、嫡子吉里が家督を継ぎ甲斐に在国
享保 9(1724)	吉里、大和郡山へ転封。徳川直轄領になり、甲府勤番制度が始まる
12(1727)	.12 裏手小路の家宅より出火、連雀口付近まで類焼
延享 元(1744)	新しい火消組組織として八町組・十二町組・上府中組が編成される
明和 2(1765)	教安寺境内に本格的芝居小屋亀屋座が開設
寛政 3(1791)	五代目市川團十郎、板東三津五郎・森田勘助らと興行
享和 3(1803)	追手門前に徴典館を創設。前身は甲府学問所(勝手小普請役富田武陵宅)
文政 5(1822)	市川海老蔵(七代目団十郎)が松本幸四郎らと亀屋座で興行
3(1830)	甲府工町浅間神社(甲斐奈神社)において、富籤興行開催(3年間)
天保 7(1836)	天保騒動。郡内で蜂起した暴徒が甲府に乱入
12(1841)	.4.5 幕絵制作の依頼を受け、歌川広重来甲。伊勢屋に滞在
嘉永 7(1854)	.11.4 南海諸道に地震(安政の大地震)。下府中の被害甚大。終日36回程の揺れ。余震が15日まで続く
文久 2(1862)	7月麻疹、8月コレラ流行。この頃(今から約150年前)村松岳岳、広瀬元恭らによって県内に種痘が広がる
明治 元(1868)	大政奉還、明治維新。官軍入城

平成

甲府城下町絵図

史跡等及び埋蔵文化財活用事業

作成：山梨県埋蔵文化財センター
〒400-1508 山梨県甲府市下曽根町923 tel. 055-266-3016
http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/
協力：甲府市教育委員会 「甲府絵図」(山梨県立博物館蔵)

甲府城ゆかりの人々	
徳川家康	天正10年(1582)から天正18年(1590)まで支配
平岩親吉	徳川家康の家臣。家康支配の期間、城代として配される。一条小山に縄張りを行い甲府城築城を開始する。甲斐の豊臣支配を経た後、慶長6年(1601)に再び城代に、徳川義直が甲斐に封ぜられると、幼少の城主の城代として慶長12年まで在府した。
羽柴秀勝	豊臣秀吉の甥。天正18年(1590)家康関東移封後支配。築城を示唆するも半年で岐阜城へ移封。
加藤光泰	豊臣秀吉の家臣。天正19年(1591)から文禄2年(1594)まで支配。築城に関する記録を多く残す。墓所が善光寺にある。
浅野長政 浅野幸長	光泰没後、文禄2年(1593)から慶長5年(1600)まで嫡男幸長とともに支配。発掘調査により、城内各曲輪から朱や金箔が施された豊臣家紋瓦や、浅野家家紋瓦が多量に出土しており、浅野の支配期間に甲府城が築城されたことが確認できる。
徳川義直	徳川家康の9男。兄の仙千代は平岩親吉の養子となる。正室は浅野幸長の娘春姫。慶長8年(1603)25万石で甲府城主となるが、甲府には赴かなかった。兄の松平忠吉の死去により、清洲藩主、家康の死後尾張徳川家の祖となる。
徳川綱重	寛文元年(1661)から宝永元年(1704)まで支配。三代将軍家光の四男で、綱豊(6代将軍家宣)の父。寛文4年(1664)から約二年間大規模な修復を行う。甲府藩をたてた。
柳沢吉保	5代将軍綱吉の側用人。宝永元年(1704)から享保9年(1724)まで甲府藩主となるが、甲府へは赴かず、江戸詰であった。宝永3年(1707)には城内外の大改修を行った。発掘調査では柳沢家の家紋瓦が出土している。綱吉死去に伴い家督を譲り引退。
柳沢吉里	吉保の子。吉保の引退により甲府藩主となり、来甲。在府した唯一の藩主。父の政策を引き継ぎ、甲府下町の整備に力を入れる。治水事業にも功績がある。甲斐八景を撰するなど文芸にも造詣が深く、自ら能を舞い、町民にも見物を許した。善政を敷いたが、享保9年(1724)大和郡山へ転封となる。出立の日には多くの見送りを受けたという。
徳川忠長	徳川秀忠の子。母は浅井長政の娘お江与。3代将軍家光の同母弟。元和4年(1618)甲府城主となるが治世は家臣団がおこなった。寛永9年(1636)家光により甲府へ蟄居命令。駿河、甲斐を没収され高崎城で自害(享年28)
大久保長安	元は武田家家臣(お抱え猿楽師)。黒川金山などの開発を担当。後に徳川の家臣となる。武田滅亡後、徳川の家臣となり異例の出世を果たす。慰霊塔が尊経寺に残る。